

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

<若葉台小・中学校 教育目標>
◎学校力と地域力で
・健やかな体と豊かな心を育みます(徳・体)
・学ぶ力を育て、高めます(知)
<若葉台中学校 教育目標>
・互いを生かし、共に支えあう生き方を育みます(公)
・自ら課題を持ち、考え、解決しようとする力を高めます(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

<自分づくりに関する力>

具体化した資質・能力

地域から学び地域に貢献する姿勢 他者の考えや思いに対する受容性
自己肯定感 自己有用感 主体性・積極性

中期取組目標

◎子ども一人ひとりを大切に、学びを通して自立をめざします。
◎子どもが「わかる、できる」を実感し、「考える」授業を通して、思考力、判断力、表現力等の「学ぶ力」を育成します。
◎人も自分も大切にできる人権尊重教育を推進し、相手の立場に立って考えられる「思いやり」の気持ちと共生、協働の態度を育成します。
◎自治意識、自治能力を育てる主体的な生徒会活動を推進し、課題解決を図ろうとする力を育成します。
◎多様な人と関わり、充実した体験活動や実践の中で、自己肯定感や自己有用感を醸成します。
◎地域の教育力を生かして、地域からの学びと交流を図る中で、地域の中で成長し、社会に貢献できる子どもを育成します。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (学習指導 授業改善) and 具体的取組 (1.生徒が自ら問いを見だし解決していく授業を通し、日常や社会の中で生きて働く力を育てる。 2.ChromebookなどのICT機器を活用し、思考力、判断力、表現力等の向上を図る。 3.校内や小中合同での授業研究会を通し、全ての教員が授業改善に取り組み、生徒の資質・能力の育成を目指す。)

学力向上に関わる本校の状況

第1学年(現2年)は各教科とも学習意識は高いものの、学力的にはかなり厳しい状況で入学してきている。内訳で見ると、どの教科も知識以上に思考力が著しく低く、話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたり、発表したりすることを苦手とする生徒が多いのも原因の一つと考えられる。
第2学年(現3年)は学習意識そのものが低く、学力的にも課題があるのが現状となっている。学力の内訳では、教科によっては知識・理解力が課題となっており、小学校時代からの積み残しが解消できていない状況にある。
いずれの学年も、授業に向かう姿勢は決して悪くはないので、興味・関心が持てるような展開と、「わかる」を実感できるような授業内容を、ChromebookなどのICT機器を活用するなどの工夫をしていくことで、学力の向上を図りたい。



今年度の目標

「わかる、できる」を実感できる授業を目標に、生徒一人1台のChromebookを、日常的に授業で活用できるように研修を重ね、授業改善に取り組む。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
・授業改善週間をもうけ、各教科、授業におけるChromebookの活用法を検討し、互いの授業を公開する。さらに、それをもとにした研修会を講師も招き実施することで、研鑽を深める。
・前期小中合同授業研究会により、学校関係者からの意見も参考に、さらに授業改善に努める。

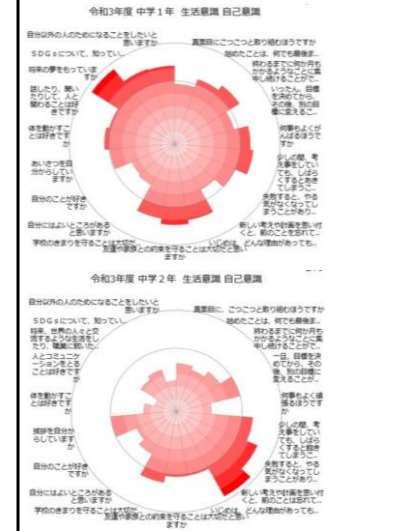
下半期
・1学期に行った研修会をもとに、2学期以降は日常的に授業の中でChromebookが活用できるように各教科とも検討し、実施していく。
・後期小中合同授業研究会において小学校の授業を参観し、中学校にいかせる取組を模索する。
・年度末に、今年度の授業改善に向けた取り組みを振り返り、次年度の計画を立てる。

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (道徳教育 人権教育) and 具体的取組 (1.道徳科を要として、道徳教育や人権学習、平和学習を充実させ、思いやりをもち、よりよく生きる喜びを見いだす心を育てる。 2.校外学習や学校行事などを通して、生徒の達成感や自尊感情、自己肯定感を高めるとともに、他者との関わりの中で自他を大切にできる心情や態度を育てる。)

豊かな心に関わる本校の状況

第1学年(現2年)は、生活意識・自己意識全般では高い数値となっており、とくに他者との関わりについては関心が高い様子がうかがえる。一方、「自分のことが好き」「自分には良いところがある」の項目では低い値となっている。
第2学年(現3年)は、全般的に生活意識・自己意識が低く、こちらでも、「自分のことが好き」「自分には良いところがある」の意識の低さが、他者との関わりなどにも影響が出ている可能性がある。
全体として、自己肯定感の低さが課題となっている。



今年度の目標

道徳科を要として、学校行事に向けての取組なども通しながら、生徒の達成感や自尊感情、自己肯定感を高め、他者との関わりの中で自他を大切にできる心情や態度を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
・各学級の道徳科の時間と、学校の教育活動全体を通しておこなう道徳教育との関連を図る。
・3年沖繩修学旅行、2年戸狩自然教室、1年横浜校外学習の中で、平和学習、体験学習を通して、生徒の達成感や自尊感情を育てる。
・地域交流授業では、地域の方との交流を深める中で、自己肯定感・自己有用感を高める。

下半期
・体育祭、合唱コンクール、職場体験・職業体験などを通して、他者との関わりの中で自尊感情を育てる。
・道徳科の研究授業を通し、道徳科の時間の授業力向上を図る。
・3年模擬面接では、地域の教育力を活かして、地域からの学びと交流を図る中で、生徒が自主的に進路選択をして、自己実現が図れるような場面とする。

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健康教育 食育) and 具体的取組 (1.運動、食事、休養、睡眠等の重要性の理解と日常生活における実践を図り、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質、能力を育成する。 2.保健だより、保健委員会の活動等で生徒の実情に合った内容を取り上げることで、自ら心身の健康を保持増進するための意欲と実践力を育てる。)

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる生徒の実態
・落ち着いた生徒が多く、授業に真面目に取り組む雰囲気がある。
・地域にスイミングクラブがあり、水泳が得意な生徒が多い。苦手な種目に、意欲的に取り組む生徒が少ない。
・身体計測については、男女ともに身長、体重について、全国、横浜市平均より下回る結果であった。
・新体力テストについては、全体的として、全国平均、横浜市平均より下回る結果となった。その中でも、走力の種目(50メートル走、持久走)について、差が大きいことがわかる。
・昼食は、お弁当を持っている生徒が大多数を占める。お弁当を持ってこない生徒は、給食を食べている。
・朝食を食べてくる生徒がほとんどである。
・昼休みにグラウンドで遊ぶ生徒が少ない。
・地域には、運動できる施設として、地区センターがある。その他、地域行事も盛んに行われ、ソフトボール大会、ソフトバレー大会、駅伝大会などが実施されている。
・保健室利用者は全体として少ないが、同じ生徒が繰り返し利用することが多い。

(2)これまでの学校の取組状況
・交通安全教室
・救命救急講習会
・防災教室
・1年生 内科校医による喫煙防止教育(株)明治による食育教室
・2年生 未成年者飲酒防止教育
・3年生 横浜旭ライオンズクラブによる薬物乱用防止教育

今年度の目標

運動に親しむことが、心身の健康保持増進につながることを理解させ、さらに人と人の結びつきを深めることに気づかせる。規則正しい生活習慣を確立するために、健康的な食生活、休養、睡眠時間を改善するための資質、能力を育成する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
《体育科・保健体育科での取組による資質・能力の育成》
・運動の基礎的、基本的な知識・技能の習得。仲間と協力し、助け合い、励まし合いながら学ぶ力を高める。自己、他者の運動の動きについても、正しい理解のもとに動きの分析を正確に行い、取組む課題を明確にできる力を養う。
・健康・安全について、気を配り、環境を整えて運動を実践できるようにする。
《横断的な取組による資質・能力の育成》
・家庭科 ・技術家庭科 ・道徳 ・総合的な学習の時間
・特別活動(保健指導・安全指導)
・身体計測 ・新体力テスト
・体育祭 ・部活動
・校外学習 ・自然教室 ・修学旅行
・昼食時間 ・食育

下半期
・1学期に実践したことについて、生徒に育成された資質、能力を分析して、2学期以降に着手することを検討し、実施するようにする。
《検討、実施について》
・全体として、育成を目指す具体化した資質・能力と関連付けた具体的な手立てについて。
・学年やクラスごとに具体的な手立てについて。
・教科ごとの具体的な手立てについて。
・教科外での具体的な手立てについて。
・年度末に、今年度の目標を踏まえて達成状況を確認し、次年度の目標、計画をたてる。